

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03887

研究課題名(和文)日タイ・ジェンダー役割期待の比較研究

研究課題名(英文)Comparative Study on Gender Role between Thailand and Japan

研究代表者

石井 香世子 (ISHII, Kayoko)

立教大学・社会学部・准教授

研究者番号：50367679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、タイで女性の社会進出が進んでいる背景に、女性の家事と市場労働への二重負担を軽くする社会システムの整備・普及があるのではないかと仮定し、日本との比較で検証を試みた。具体的には、「家事の外注」「家事労働者の活用」「隣人・家族の家事分担」の3項目について、それらがどの程度普及しているかを調査した。また、そうした社会システムの普及を支える価値観にはどのようなものがあるのかを探った。客観的な日本・タイ双方のジェンダー役割と家庭内労働分担を比較するため、タイにいる日本女性、日本にいるタイ女性を中心にインタビュー調査を実施し、「アジアの中のジェンダー規範の多様性」を指摘した。

研究成果の概要(英文)：This research project performed a comparative examination of the factors that have brought about differences in the proportion of females in the domestic, and market labor force between Thailand and Japan. This research study particularly focused on the extent of acceptance for labor saving practices such as “outsourcing of domestic work,” “hiring domestic workers,” and “sharing domestic work with broader kin groups and neighbors” in each country. This research study also examined social norms and their role in bringing about the differences in acceptance with regard to the above-mentioned three factors. This research study focused on Japanese female migrants in Thailand and Thai female migrants in Japan. The research results show that gender norms within Asia are much more diverse, although existing research tends to set frameworks such as the “Asian gender norm,” which is then compared with the “Western gender norm.”

研究分野：社会学

キーワード：ジェンダー役割 タイ 日本 東南アジア 東アジア

1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、女性の活躍が著しいタイの社会システムの中から、日本の女性の社会進出の参考となる点を明らかにすることにあった。日本は東・東南アジア諸国の中でひとときわ早期に経済発展を遂げながら、いくつもの機関による調査で、今日でも世界の中でもっとも女性の社会進出度が低い国と位置づけられている。これに対し、タイは経済発展とともに女性の専業主婦化が指摘されながらも、依然として女性管理職の割合は世界第一位(2014年)というほど女性の社会進出が目覚ましい。同じアジアの仏教国なのに、どのような社会システムの違いがそのような女性の社会進出度の違いを生むのだろうか。さらに、そうした社会システムを生み出す価値観の違いを明らかにしたいというのが、本研究の背景であった。

2. 研究の目的

(1) 本研究の上位目標は、同じアジアの仏教国でありながら女性の社会進出が著しいタイと、女性の社会進出が遅々として進まない日本とで、どのような社会システムの違いがその差を生むのかを明らかにすることにあった。

(2) 本研究で具体的に明らかにすることとしては、女性への家事と市場労働の二重負担を軽減させるシステムが整っているかを、「家事の外注」「メイドの活用」「隣人・家族の家事分担」の3項目について、普及率を調べることにあった。

(3) さらに、上記の女性への家事と市場労働の二重負担を軽減させるシステムが発見された場合、とそれを支える価値観にはどのようなものがあるのかを明らかにすることがあった。

3. 研究の方法

(1) 本研究プログラム実施前に、日本とタイの乳幼児を抱えて働く母親への「家庭内のジェンダー役割分担」に関するアンケート調査を実施した。調査は、ともに比較的高学歴の共働き世代が多いと考えられる首都近郊の住宅地を選び、日本の首都圏西部・タイのバンコク圏北部の2カ所で実施した。

(2) 上述のアンケート調査結果の分析に際し、より焦点を絞った事例調査を追加し明晰なものとするため、タイと日本でインタビュー調査を実施した。

(3) さらに2年目からは、初年度に明らかになった研究上の問題点(家事労働の負担率を客観的に測ることの難しさ)を克服するため、タイ・日双方のジェンダー役割と家事・市場労働の負担を比較認識できる、移民女性(日本に嫁いだタイ女性、タイに嫁いだ日本女性)に焦点を絞ってインタビューを実施した。

4. 研究成果

(1) 本研究では、タイで女性の社会進出が進んでいる背景に、女性の家事と市場労働への二重負担を軽くする社会システムの整備・普及があるのではないかと仮定し、日本との比較で検証を試みた。

(2) 具体的には、「家事の外注」「家事労働者の活用」「隣人・家族の家事分担」の3項目について、それらがどの程度普及しているかを調査した。「外注」や「普及」をどのように定義するかにはタイと日本で差異があることが調査途中で判明したが、途中である程度の指標をつくることでこの部分を改善した。

(3) また、そうした社会システムの普及を支える価値観にはどのようなものがあるのかを探った。「家事の外注」「家事労働者の活用」「隣人・家族の家事分担」のすべての部分に

において、タイでは日本より普及が進んでいた。(4) こうした普及の背景には、両社会における階層化の普及度およびジェンダー役割期待の相違が挙げられると分析された。調査対象者についてみる限り、日本では女性の4年生大学の卒業生割合が増加した今日でも、成人女性の価値づけに個人・職業人としての功績はそれほど要求されない。(実態は別として)日本では意識上、家庭人として一定の外形的要件を満たすこと(既婚であること、一定数以上の子供を産んでいること)のみが女性というジェンダー役割として期待されている側面が強い。それに対してタイでは、4年制大学を卒業した「階層」の女性たちには、経済発展とともに薄れつつあるとはいえ、なお同じ学歴の日本女性よりはるかに高い役割期待が課せられていると見ることが出来る。彼女たちに期待される社会的期待は、自分の階層と釣り合うかそれ以上の階層に属す配偶者と結婚し、子どもを出産した経験があるだけでは不十分であると見做されてきた。彼女たちは、同時に社会人・職業人としての成功、子どもの学歴や社会的な達成度の高さ、身なりや持ち物の良さなど、多方面からの要求を満たしてはじめて、社会的な役割期待を満たすことができるとされてきた。この高い役割期待を満たすため、上述の「家事の外注」「メイドの活用」「隣人・家族の家事分担」が普及したと考えられる。現在のタイでは、中間層を中心に専業主婦化が進行しているが、この社会システムはほとんど維持されたままだと考えられる。またここには、周辺諸国からの安価労働力の流入という経済的背景も影響を与えていることが分析された。つまり、同じ「アジアの仏教国」といっても、それぞれの社会におけるジェンダー役割期待は、階層化の度合い等に影響を受けて、多様であると言える。

(5) こうして地域研究者の視座から、これまでジェンダー論のなかで「西欧のジェンダー

規範」と「アジアのジェンダー規範」という概念枠組みによって見落とされがちだった「アジアの中のジェンダー規範の多様性」を指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Kannapa Ponpongrat, Kayoko Ishii.
“Social Vulnerability of Marginalized People in Times of Disaster: A Case Study of The Great East Japan Earthquake and Tsunami,” *International Journal of Disaster Risk Reduction*, 査読有, vol.27, 2018, pp.133-141.

Nisakorn, Klanarong, Kayoko Ishii,
Cross-border Migration in Proximity: Thai-Malay Workers Migrating from Southern Thailand to Northern Malaysia, *Contemporary History*, 査読無, vol.12, 2016, pp. 1-19.

[図書](計3件)

石井香世子編著、『国際社会学入門』ナカニシヤ出版、2017、177

Kayoko Ishii, Acharya, Arun Kumar. Bishnu Charan Barik, and Smita Verma eds., *Labour Migration in the Globalization: Challenges and Perspectives*, Universidad Autónoma de Nuevo León, 2016, 245 (pp.17-26).

石井香世子 陳天璽・大西宏之・小森宏美・佐々木てる編著『パスポート学』北海道

大学出版会、2016、265 (pp.62-67).

6 . 研究組織

(1)研究代表者

石井 香世子 (ISHII, Kayoko)

立教大学・社会学部・准教授

研究者番号 : 5 0 3 6 7 6 7 9

(2)研究協力者

ガナパー・ポンポンラット (Kannapa

Ponpongrat)

タマサート大学 (タイ) ・イノベーション

ンカレッジ・専任講師

ニサコーン・クラナローン (Nisakorn

Klanarong)

タックシン大学 (タイ) ・人文社会科学部・

専任講師